



快挙！ラッパが初入賞

8/2 第18回長野県消防ラッパ吹奏大会

長野県消防ラッパ吹奏大会が8月2日、須坂市の県民須坂運動広場で開かれました。この大会には、松本消防協会の大会で優勝した市消防団音楽喇叭隊が出場。初となる5位入賞の快挙を成し遂げました。音楽喇叭隊には106人が所属。火災予防啓発や団員の士気高揚を図っています。今回の入賞について、隊長の丸山宏章さん（豊科）は、「楽器を触るのも初めてという団員が多い中、みんなの努力が実を結んだ。目標を持ち、年間を通じた活動に一層励みたい」と決意を新たにしていました。



花じゅうたんでお出迎え

8/23 アルプス花街道イベント

アルプス花街道実行委員会主催の花のじゅうたん「夢」「想」「花」が8月23日、スワンガーデン安曇野で開かれました。平林円香さん、丸山春香さん（豊科）から寄せられた図案を基に製作した縦1.8m×4.5mの花のじゅうたんに、訪れた人は関心していました。今年は市内84団体1,369人が参加。市内5カ所でマリーゴールドを育てる活動を行ってきました。花のじゅうたん製作に参加した金森崇汰さん（小3穂高有明）は、「初めて参加してみても楽しかった」と笑顔で話してくれました。

幽玄の舞台 子どもたちが登場

8/22 信州安曇野薪能

信州安曇野薪能（実行委員会主催）が8月22日、明科の龍門湖公園で開かれました。19回目となる今回は、名誉市民（故）青木祥二郎さんの長男・青木道喜さんのほか、人間国宝の片山九郎右衛門さんと野村萬さんなどを迎えて行われました。

そして初の試みとして、「鞍馬天狗」の稚児役に選ばれた市内の10人の児童が、青木さんと共に舞台に出演しました。出演者のひとりで、7月から週1回の稽古を重ねてきた滝沢愛佳さん（小5・明科）は、「稽古は先生が分かりやすく教えてくれた。本番は緊張したけど、たくさんの友達と一緒にできて楽しかった」と当日の様子を振り返りました。また、



昨年から公募で選ばれている火入れ役には、北野麻実さん（穂高・写真左）が務めるなど、市民との関係がより親密なものになっています。



5,000発が空を飾る

8/14 安曇野花火

第3回となる安曇野花火（実行委員会主催）が8月14日夜、明科御宝田遊水池西の犀川河川敷で開催されました。

県内各地の花火大会の中には、景気後退のあおりを受けて規模の縮小や中止となった大会もある中、本花火大会は商工会青年部など実行委員の皆さんの努力が実り、昨年並みの5,000発を夜空に咲かせました。

集まった約15,000人の観客は、時折吹く涼しい風の中、安曇野の夜を楽しみました。今年初めて設置した升席もほぼ完売と好評で、目前から打ち上げられる迫力に、拍手と歓声があがっていました。



やっと戦争から逃れられた

8/12 地元出身の旧日本兵の手帳が帰郷

第2次大戦中にニューギニアで亡くなったとされる豊科出身の丸山続^{つづ}さんの手帳が8月12日、孫の吉仁さん（豊科）ら遺族の元へ届けられました。この手帳は戦後、オーストラリア・マンリー市の博物館が保管。同市と交流のある神奈川県小田原市の関係者が尽力し、返還に至りました。3女・まつみさんは、手帳を胸に当て、「やっと父も戦争から逃れられた。父に抱かれた記憶はないが、今度は私が父を抱きしめようと思った」と声を詰まらせながら話しました。



映像に残る 誕生の軌跡

8/28 礫山美術館 建設の軌跡をDVDに

財団法人・礫山美術館はこのほど、51年前の館建設時の映像をまとめたDVDを完成させました。8月28日には関係者が市役所を訪れ、完成したDVD12本を図書館などに寄贈しました。このDVDは、建設当時に等々力美貞さん（大町市）が8ミリカメラで記録したものにナレーションと音楽を加えて再編集したものです。映像は礫山の生家と周辺のわさび田風景から始まり、起工から落成までの活動が収録されています。さまざまな人が携わった美術館誕生までの軌跡をたどることができます。